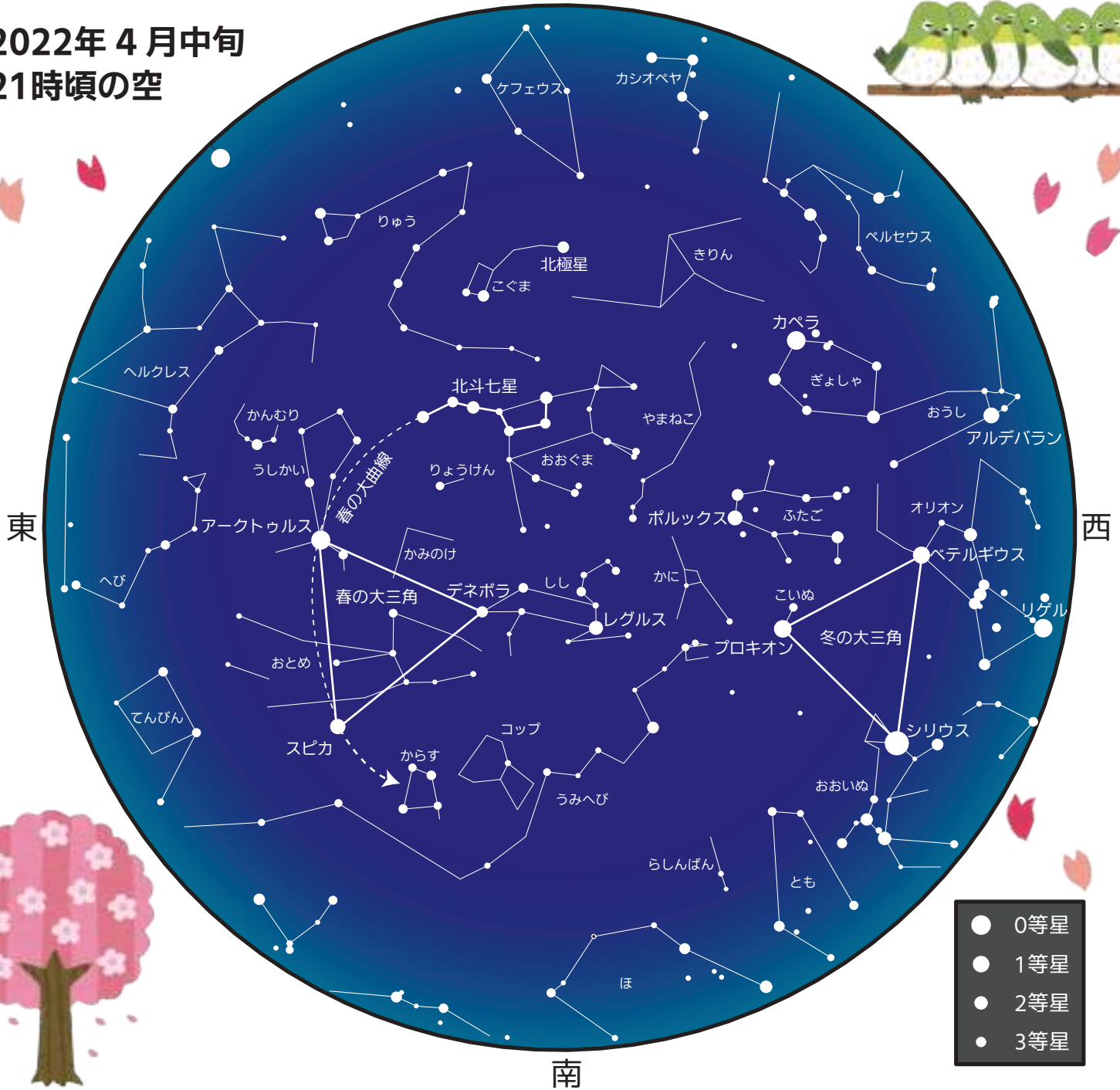


# 阿南市科学センター 4月の星空案内

北

2022年4月中旬  
21時頃の空



南

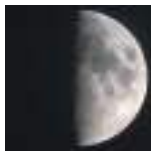
日々の暖かな陽気に、いよいよ本格的な春の訪れを感じるようになりました。夜空でも春の星座たちが見ごろを迎えています。春の星座の案内人は**北斗七星**です。頭の真上近くを見ると、神社の水をくむ道具であるひしゃくの形に星が並んでいるのが分かります。この特徴的な星の並びが北斗七星です。日本では北斗七星という名はよく知られていますが、これは星座ではなく、おおぐま座という星座の一部となっています。北斗七星のひしゃくの持ち手を南へ伸ばすと、1つ明るい星が目に入ります。この星はうしかい座の**アークトゥルス**(約-0.0等)という星です。さらにこのカーブを伸ばした先にある明るい星がおとめ座の**スピカ**(約1.0等)です。北斗七星からアークトゥルス、スピカとつないだ大きなカーブを**春の大曲線**といいます。さて、春の大曲線からはもう1つ星座を探することができます。スピカからさらにカーブを伸ばすと、いびつな四角形があります。この星並びが**からす座**です。からす座の星はどれも3等星ほどの明るさですので、街明かりを避ければ見つけやすい星座です。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】  
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

# ■ 4月の月の満ち欠けと惑星について



新月  
1日



上弦  
9日



満月  
17日



下弦  
23日

## 4月の天体観望会で月が見える日時は？



4/9(土) 全ての回で観察可



4/16(土) 20時・21時の回がお勧め

水星：下旬ごろ、日没後西のごく低空に見える。【約 0.3 等】

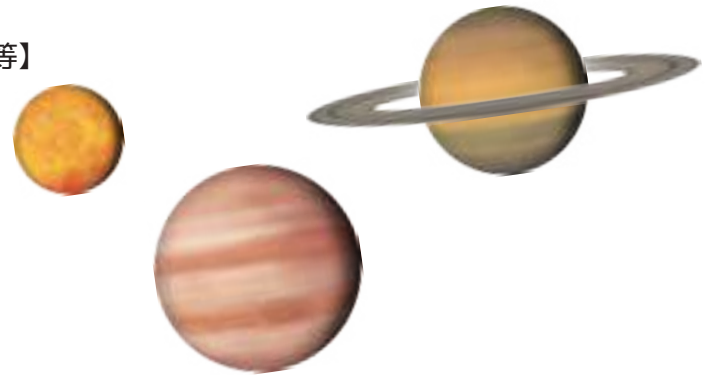
金星：日の出前、東の低空に見える。【約 -4.2 等】

火星：日の出前、東の低空に見える。【約 1.0 等】

木星：日の出前、東のごく低空に見える。【-2.1 等】

土星：日の出前、東の低空に見える。【約 0.9 等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ下旬の明るさ。



# ■ 4月のおすすめ天体

## ★夜明け前の月と惑星（下旬）

4月は19時や20時など、夜の早い時間帯に惑星を観察することはできません。一方、夜明け前、東の空低いところでは惑星たちがいくつか見えており、にぎやかな空となっています。

4月中旬までは**土星**、**火星**、**金星**の3惑星ですが、下旬になると**木星**も顔を出しはじめ、4惑星の姿を目にすることができます。さらに25日から28日かけては、下弦を過ぎた細い月も加わり、より一層華やかな空となります。

各惑星の明るさは-4等から1等ほどとなり、肉眼でも目にすることができます。木星や金星は東の低空に見えるので、できるだけ東の空がひらけているところで観察をしてみてください。「早起きは三文の徳」、ということわざがありますが、4月の下旬は「早起きは4惑星(+月)の徳」とも言えそうです。月と惑星たちの共演をぜひお楽しみください。



図 1. 4月25日午前4時の月と惑星



写真 1. ひまわり銀河（撮影：A.Suzuki）

## ★ひまわり銀河 M63（りょうけん座）

科学センターがある阿南市の花といえば、ひまわりです。りょうけん座にはひまわり銀河と呼ばれている天体があります。ひまわり銀河は、銀河にある数多くの星たちが渦を巻くように集まっていることから渦巻銀河に分類されています。そのような銀河の姿がまるでひまわりのように見えることから、ひまわり銀河と名がつけられました。

銀河中央の明るく見える部分はバルジと呼ばれており、銀河にある星たちが集中している部分です。変わってまわりの渦巻状の部分はディスクといい、銀河内の星やガスが集まっている部分です。科学センターの113cm望遠鏡で見ると、中心の部分がぼんやり明るくなっている姿が分かります。